

観光交流推進特別委員会会議録

1. 日 時 平成22年12月8日(水曜日)
午前9時29分～午前10時58分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 下井克己 委員長 萬代泰生 副委員長
徳並伍朗 委員 村上健二 委員
山本昌二 委員 河本芳久 委員
岩本明央 委員 山中佳子 委員
高木法生 委員 岡山隆 委員
馬屋原眞一 委員 秋山哲朗 議長
布施文子 副議長
4. 欠席委員
5. 出席した事務局職員
重村暢之 局長 岩崎敏行 主査
岡崎基代 係長
6. 説明のため出席した者の職氏名
林 繁美 副市長 田辺 剛 総合政策部長
末岡竜夫 総合政策部地域情報課長 伊藤康文 建設経済部長
斉藤 寛 建設経済部次長 秋枝秀稔 建設経済部農林課長
山本 勉 総合観光部長 綿谷敦朗 総合観光部観光総務課長
西田良平 総合観光部観光振興課長 古川和則 総合観光部観光振興課主査
金子 彰 教委事務局長 高橋文雄 教委文化財保護課長

午前9時30分開会

委員長（下井克己君） それでは皆さんおはようございます。只今より観光交流推進特別委員会を開催いたします。まず初めに、副市長さん何かご報告ございましたら。

副市長（林 繁美君） 何もありません。よろしく申し上げます。

委員長（下井克己君） 議長さんどうでしょうか。

議長（秋山哲朗君） 特にございませぬ。よろしく申し上げます。

委員長（下井克己君） それでは早速審議に入りたいと思います。まず今回より美祢市内にありますイベント、お祭り、いろんな体験学習やっております。それについてちょっと取り上げて調査研究してみたいと思いますので、皆さんよろしく願います。まずお手元に配付しております資料の確認したいと思います。まず一番上が美祢市内のイベント一覧というやつですか。すみません旅行村ですか。家族旅行村への資料と美祢市内のイベント一覧とあります。これは観光部のほうだと思います。それから教育委員会文化財保護課と右上に書いてあります分があります。よろしいですか。それから農林課関係イベント。4月分と書いた分があると思います。これは地域情報課からのイベントのカレンダーです。一番最後が体験学習と書いた分があると思います。皆さんありますか。（「はい」と呼ぶ者あり）それではこれに沿って、執行部のほうと言うか説明等しながらお願いしたいと思います。まず最初に旅行村のはおいておきまして、観光部のほうからお願いできますか。はい、西田課長。

総合観光部観光振興課長（西田良平君） それでは資料に沿って、ご説明のほういたします。資料は左上に美祢市内のイベント一覧と書いてあるA4縦のものでございます。それでは概略的に説明のほうさせていただきます。まず表の一番上なんですけども、桜まつり in 大正洞&秋吉台エコ・ミュージアムというイベントでございます。こちらのほうは4月の第1日曜日に、エコ・ミュージアムのほうで開催しておりますイベントでございます。基本的に桜がちょうど咲く時期ということで、エコ・ミュージアムの前でイベントを行っていただいております。主催者は秋吉台リフレッシュ連絡会というところでございます。こちらのほうのイベント内容はそこに書いてございますように、マーケット・バザー及び桜コンサートということで、今年は太鼓とふるさと大使、交流大使になられております入山アキ子さんのステージがございました。続きまして二つ目でございます。あじさいウオーク、こちらのほうもリフレッシュ連絡会のほうが主催されております。こちらにつきまして

は、サファリランドさんの協力を得まして、平成21年度は景清洞の中で宝探しなどを開催しております。本年度につきましてはサファリランドの外周道路を歩いていただくウォークラリーを開催し、景品等のプレゼントをされております。三つ目でございますが、秋吉台観光まつり、こちらのほうにつきましては、秋吉台観光まつり実行委員会を組織して、開催のほうをされております。本年度につきましては、皆様ご存知のように花火大会のほう中止というふうになっております。その他こちらのほうの観光まつりにつきましては、期間的には主に夏休み期間中ということで開催しております。花火大会が当然メインのイベントではございますが、そこに書いてありますように、ものづくり体験であったりとか、そのほか三洞物語と言いまして、秋芳洞・大正洞・景清洞の共通チケットということで、大人で3,200円かかるところが2,000円の割引券を発行をしております。こちらにつきましては、利用者は本年度約2,300名の方が購入されております。それからものづくり体験につきましては、秋芳洞商店街のふれあい広場におきまして、竹細工、大理石クラフト、こういったようなものの体験をしていただくようなイベントを実施しております。その他、闇と明かりのロマン探検と言うものを実施しております。こちらにつきましては、通常の秋芳洞の入洞時間を過ぎました19時より、洞内の照明を全て消しまして懐中電灯を持って頂いて、まさに探検のごとく入洞していただきガイドによる説明を行うというものでございます。こちらのほうも約150名の方が、この夏休み期間中に利用をされております。そのほか観光ディレクターの無料案内、美祢市の自然街道スタンプラリー等を行っております。続きまして、中段当たりになります。秋吉台リフレッシュパークまつり、こちらのほうも実行委員会のほうで主催をされております。こちらのほうはリフレッシュパークの広場におきまして、バザー、ジャンボくじ引き大会、それからもちまき等を行っております。続きまして秋吉台カルストウォーク、こちらのほうも同じく実行委員会を組織しております。本年度は10月24日に開催をしております。約1,500名の方が参加をされております。今年につきましては非常に雨も降った中ではございましたが、参加者の方非常に多くが参加をされております。5km・10km・15kmコースに分かれて台上にコースを設定しております。それぞれ歩いていただくというイベントを開催しております。続きまして、菊花展でございます。こちらのほうは11月3日から10日まで8日間、ふれあい広場におきまして市内で菊を育てていらっしゃる皆様方の協力を得まして、菊花展のほう開催いたしました。それに合わせまして、次のイベントお茶会なんですけども、菊花展の期間

中の土・日を利用いたしまして、今年も11月6日、7日でしたが、お茶会のほうを開催いたしました。2日間の中でそれぞれ500名ずつで予定をしておりましたところ、ほぼその数950名でしたが、実際にお茶のほうを飲まれております。最後に秋吉台地域エコツアーでございます。こちらのほうは秋吉台地域エコツーリズム協会のほうが主催をされまして、3月から12月の下旬まででツアーを実施されております。このエコツアーにつきましては、ホッチキスでとめてあります次のページ以降の3枚ほどございますが、こちらのほうがツアー内容でございます。大きく分けると、春・夏・秋という形でそれぞれの秋吉台地域において四季折々のものを楽しんでいただく、あるいは学術的に勉強していただく、こういったようなツアーを展開をされております。春のエコツアーにつきましては14ツアー、次のページの夏のエコツアーにつきましては13ツアー、秋のエコツアーについては11ツアーほどを実際開催をされております。こちらのほうにつきましては、少人数制でだいたい20名程度を募集人員といたしまして、インタープリターの方が先導されそれぞれのご案内、学術的な部分であったりとか、秋吉台特有の部分であったり、そういったようなものを説明をされるツアーでございます。観光振興課のほうからは以上でございます。

委員長（下井克己君） ありがとうございます。続きまして、文化財保護課ですか。はい、高橋課長。

教育委員会文化財保護課長（高橋文雄君） 続きまして、文化財保護課関係のイベント等についてご説明いたします。1枚ものの左上のほうに教育委員会文化財保護課と書いてある分でございます。文化財保護課自体といたしましては、これに該当するものはございませんので、関係施設等が行っております体験学習等についてご説明をいたします。まず長登銅山文化交流館のほうでございます。これは今年度から企画展というのを開催しておりまして、今年度は11月に行っておりまして、来年度は7月頃を予定しております。参加費は入館料が必要になると思います。それから次の鑄造体験をこれも本年度から始めた事業でございますが、開始しております。これは毎月第2土曜日の10時から、参加人数は20名程度、参加費は300円、これは材料費をお願いするという形でございます。対象といたしましては、一般の方は毎月第2土曜日だけの申し込みになりますが、団体、修学旅行の場合は随時受け付けるということで、要予約でございます。これは錫という金属を使いまして、自分のメダル等を作っただけでお持ち帰りいただくという体験でございます。だいたい1時間ぐらいの工程でございます。次の日本最古の銅山探検で

ございますが、これも本年度から行っている事業でございます、毎月第4土曜日の10時から、参加人数は20名程度で参加費は無料ということで行っております。これも要予約でございます、但し団体、修学旅行の場合は随時受け付けて行うという事業でございます。続きまして、秋吉台化学博物館のほうでございます。これは化石採集体験学習というのを行っております。これは1年間通して随時でございます、参加費は無料でございます。但しこれは、修学旅行及び団体のみのご利用という形で、要予約でございます。続きまして、歴史民俗資料館の事業でございますが、11月の上旬から11月末頃にかけて、毎年この特別展というのを開催しております。参加費といたしましては、入館料が必要になります。但し市民の方につきましては、開催初日から数日間につきましては無料開放という形で行っております。続きまして、化石教室というのを夏休み前後に行っております。7月中旬から8月上旬にかけて行っております、人数は26名と限定しております。参加費は無料で、対象は小学生以上、これは要予約ということでやっております。これは市内にあります化石採集場及び秋吉台化学博物館でやっております体験学習、これの両方に行きまして、実際の化石採集を経験していただいた、あと再度資料館に帰って頂きまして、その化石を整理して頂き持って帰っていただくという事業でございます。続きまして、植物採集会のほうでございます。これは7月末頃に開催する事業でございます、定員人数を26名と限定しております。参加費は無料で対象者は小学生以上、要予約という形でやっております。これは通常桜山の展望台のほうに行きまして、その周辺の植物採集をし、指導者により名前とか整理の方法等を指導して頂いて、お持ち帰りいただくということでやっております。ただ今年度につきましては、残念ながら7月の大雨のため道路が通行止めになっておりましたので、中止しております。それから次の土器制作体験学習でございます。これは8月上旬頃に開催しております。人数は20名、参加費は無料で対象は小学生以上で要予約でございます。こちらのほうは弥生土器を作ろうということで、埋蔵文化財センターのほうの方を指導者としてお招きいたしまして、弥生式土器の制作等を行い、最終的にはそれを焼いてお持ち帰りいただくという形になっております。続きまして、化石館で行っております体験コーナーでございます。これは毎月第2・第4土曜日に開催しております、人数は15名の限定でございます。参加費といたしましては入館料が必要となります。対象者といたしましては5歳から中学生までの方に限っております。これも要予約でございます、これは化石館の中庭に準備しております化石の原石から化石を取り出し、それをきれいにしやはり持って帰

っていただくというコーナーでございます。最後に銅山まつりでございますけども、これは銅山まつり実行委員会というのが主催しておる事業でございます、長登銅山跡の広場等を利用いたしまして行う事業で、10月の下旬頃を開催しております。これは古代銅の精錬復元実験をメインといたしまして、やはり鑄造体験とか竹細工体験とか製炭体験とか、あるいは史跡巡りなどのいろいろな体験事業をおりませたお祭りとしております。また長登太鼓等の演奏等も含めてお願いし、開催している事業でございます。以上でございます。

委員長（下井克己君） はい、ありがとうございました。続きまして、農林課お願いできますか。はい、秋枝課長。

建設経済部農林課長（秋枝秀稔君） 農林課といたしましては、市が主催あるいは実行委員会に係わっているイベントについて、5件ほど記載させて頂いております。まず最初にそば花フェスタ in 秋芳ということで、八代にありますぬくもりの里を起点にですねそば花フェスタを行っております。主催につきましてはルーラルフェスタ協議会ということになっておりまして、9月中下旬に行っております。それから2番目に、ルーラル・きらら・フェスタということで10月中下旬に行っておりまして、市内各所で拠点に道の駅などいろんなところで行っております。特産品、新鮮野菜等の販売を行っております。3番目としましては、畜産共進会ということで、和牛の振興を図るためにですね品評会を行っております。それから4番目としましては、おもいきり美東体感塾ということで、これは美東大田にあります桂岩ふれあいセンターを起点に行っておりまして、6、10、12と3回フェスティバルを行っております。6月は田植え、野菜の植付け、それから10月につきましては、稲刈りと野菜の収穫、12月は餅つき等、しめ縄づくり等行っております。それから5番目といたしましては、美秋木材まつりということで、今年の11月に行っておりますが、カルスト森林組合の会場を基に木材販売等いろいろな事業を行っております。以上でございます。

委員長（下井克己君） はい、ありがとうございました。続きまして、地域情報のほうなんですけど、このイベントカレンダーの主旨と言いますか、その点を教えて頂けますか。はい、末岡課長。

総合政策部地域情報課長（末岡竜夫君） 今回のイベントカレンダーA4の縦4月分と書いたものでございますが、本資料は地域情報課の広報みねの担当者が、広報みねに掲載するための取材、それから内容、その辺を確認するために年度当初に各課、各部署から取り集めた資料でございます。これに掲載されてますイベント行事

は、基本的に市が主催、共催、あるいは公園を行っておるものとしております。以上でございます。

委員長（下井克己君） はい、ありがとうございました。今のが市が関連しておるイベントということなんですけど、これまででご質問等ありますか。いいですか。続きまして残りの資料について進めて行きたいと思います。まず家族村の資料が出ております。これは昨年度の報告ということで、観光部総務課のほうで取り寄せて頂いたものです。21年度こういふことをやったという実績報告ですかこれは。綿谷課長何かございましたら。はい、綿谷課長。

総合観光部観光総務課長（綿谷敦朗君） お手元の資料のA4の横版、平成21年度の資料をご覧下さい。こちら4枚ものの資料でございます。これらが秋吉台家族旅行村で行われました平成21年度の自主事業イベントでございます。指定管理者であります中高年雇用福祉事業団が行われた事業でございます。5月を除きまして各月いろいろな事業イベントを組まれて実施をされております。その他各種団体との共催等も行われているようでございます。以上でございます。

委員長（下井克己君） はい、ありがとうございました。最後に一部残った資料があると思いますけど、これは私が知りうる限りのものを、只今説明頂いたものも含めて纏めたものです。1枚から5ページまでが体験学習という形で纏めました。最後の6ページがイベント、まつりです。この中で今説明のなかった各種団体の方の分があると思います。それについて、見ていただきたいんですけど、例えば1枚目の観光協会さんが主催されてるものがございます。野火の祭典に対しての火道切り、山焼きの迎え火、そして野火の祭典です。その下の秋吉台ちょっと名前間違っていましたけど、草原ふれあいプロジェクトというのがあります。これはお花畑プロジェクトと言いまして、秋吉台の草を刈ってそこにまた花を復元させようということをいろいろやっておられます。これが1年間に6回こういふのがございます。2ページがとってもゆかいな秋吉台ミーティングというところがやっています、蕎麦の種まき、刈り取り、収穫祭、最後に秋吉台ミーティングというのがございます、山焼きの前日にやります。秋吉台を散策しようということです。次に秋吉台山焼き十字軍、そして体験民宿ほっとビレッジ美東、赤郷地域ふるさとづくり協議会というのがございますけど、これは美東の赤郷の中谷さんという方が中心になられて、赤郷地区が中心でやってるいろんなイベントです。ふるさとづくり協議会のほうが、右側の備考のところ厚東川水利協議会か富士ゼロックスとか書いてありますが、この団体さんが常に来ていただいて、火道切りをしたり、火付けをしたりや

られています。あと名前だけで、秋吉台自然を親しむ会とあるんですけど、これまだ調べてませんで、またおって調べて載せたいと思います。こういうグループもあります。その次3ページが秋吉台エコ・ミュージアム、これ皆さんご存知の大正洞のところにあるエコ・ミュージアムなんですけど、そこが独自でこういうことをやられてます。それとその次の山口大学公開講座、カタログにない秋吉台、これ毎年4月に山口大学の方がエクステンションセンターですか、あちらの方が、だいたい20名前後で、1泊2日の公開講座をやられてます。これは秋吉台・秋芳洞を使って頂いております。毎年やられてます。あとその他の八代ぬくもりの里、青景おむすびの里、青景わくわく村というのがございます。これについてはまた調べて載せたいと思います。4ページ、5ページが先程言われました秋吉台エコツーリズム協会のイベントです。3月から12月までずっと載せてます。備考のほうが実際のインタープリターの方が出られてるとこの所属のものを入れております。4ページ、5ページたくさんあります。5ページの下に国際芸術村とか少年自然の家、秋吉台家族旅行村、先程ありましたけど、これをどういうふうなとりあえず調べて入れてみようとは思っております。ただ国際芸術村に関しては、ちょっと主旨が違うかなというのもせんでもないんですけど。6ページが先程ありました関係のイベント祭りのほうだけを入れております。わくわく村のホタル祭り、八代振興会のホタル祭り、水上振興会これ別府なんですけど弁天祭り、別府岩戸神楽舞保存会の岩戸神楽舞、ちょっと私主催が分からなくて入れてないんですけど、岩永大行司小行司奉納がでございます。こういうところをまだ皆様方の中でいろんなことをご存知だと思いますので、そのことをいろいろ教えていただいて、また調べてみたいと思いますが。というのがこの資料です。はい、山本委員。

委員（山本昌二君） 長登銅山いろいろとここへ掲載していただきましてありがとうございます、ここです、もう10年間以上になりますか、長登銅山窯という名称をつけましてですね、炭窯をずっと高齢者がやっておるわけです。時に炭窯体験です、修学旅行があったとき、この窯の中に入って炭を出したり、また木を入れたり、あるいは炭引くノコです、小さく刻んだりする作業をですね、年に2、3回、数回ある年もありますが、今年は2回しかございませんでしたが、これもですね何か一つです、池田館長の紹介でよく子どもたちも遊びに来る、体験に来るわけですが、その辺もよろしく、今後、委員長これ載せていただけたらと思います。

委員長（下井克己君） 主催、ここにこういう一覧を作りたいので、主催、名称、

場所（発言する者あり）また資料としてお願いいたします。参加費等もございましたらお願いします。（発言する者あり）はい、岩本委員。

委員（岩本明央君） きょうのレジュメの2ですかね。全体でもいいですか。その他も入っていいですか。（発言する者あり）最初にですね先般、山口新聞にチリの銅の落盤事故があって、その銅山の副総裁かな、美祢に2日ほど滞在をされて山口新聞に2日ほど載ってました。私のほう一人ほどすごいなと。早うわかっちゃちょっと行って見たかったのとちゅう話があったんですが、その辺のことはどのような状態じゃったろうかちゅうことと、もう一つですね今の続きですが、長登太鼓はですね非常に感銘された方がおられます。これも是非いろんなイベントに参加しておられますので、これも是非下井委員長。（発言する者あり）また一つ資料持ってきますので、よろしくお願ひしたいと思います。特に先般みとう道の駅で川の向こうで太鼓をやられて、岩国か柳井かどっかの人ですけど家族ずれできておられまして、すごいなと感銘されておられました。是非そういうふうなPRも兼ねてよろしくお願ひしたいと思います。

委員長（下井克己君） チリの件ですか。何かご存知ですか。金子事務局長。

教育委員会事務局長（金子 彰君） それでは岩本委員のご質問ですが、先般チリのほうからお二人ほどお見えになって、長登銅山のエコツアーに参加をされたということでございます。これはチリにあります国営銅山コデルコ社という会社なんですけども、これは世界一の銅の鉱石の採掘量を誇る国営の銅山会社でございまして、そちらの副総裁と課長さんがお二人でお見えになったということと、それに日本の総代理店であります会社がございまして、そちらの相談役の三人でこちらのほうにお見えになったということでございます。その副総裁につきましては、日本のと言いますか世界の銅にすごく関心がおありということで、日本の長登銅山にすごく関心をお持ちであったということで、兼ねてから是非こちらのほうに来てその銅山を見て見たいということで、この度お見えになったということでございます。その銅山会社のほうからあちらで発掘されましたすごく純粋なと言いますか、貴重な銅の鉱石を実はドラム缶4本頂いておりまして、それを来年度の銅山まつりのほうでですね是非精錬をしたいというふうに考えております。来られたのが、11月の26日、金曜日のほうにこちらに山口のほうにお見えになりまして、市長、副市長、また教育長と面会をして頂きました。その次の日27日に長登銅山でエコツアーがございまして、こちらのほうに参加をされたということでございます。化石のほうにも興味を持っておられるということで、お土産に美祢市で産出されました化

石のほう差し上げましたところ大変喜んでいただいたということでございまして、今後もですね是非関係のほう深めていければというふうに考えております。以上でございまして。

委員長（下井克己君） はい、ありがとうございました。私一番初めに言うのを忘れちゃったんですけど、今美祢市内にありますイベントとかお祭り、体験学習、エコツーリズム協会とかやられてますけど、こういうのをちょっとみんな集めて、その中で当然美祢市が着地型観光に向かって行かなければなりません。そういうのをツアーを組むような形のできるようなものをピックアップして、当然観光部のほうのホームページにも載せて頂きたいんですけど、こういうのが年間的にありますよというイベントカレンダーですか、体験学習カレンダーでもいいんですけど、そういうものを作ったらどうかと思ひまして、きょうは皆さん方にこういう各地のイベント等がございましたらということで、配付のほうでお願いしてたと思うんですけど、それをちょっと纏めてみたいと思ひまして、きょういろいろ執行部のほうからはこういうのを提出して頂きまして、私のできるわかる範囲でちょっと調べたこともやりました。美祢市内のものみんな、地区のお祭りは別としてですね、美東町単位でやってる、秋芳町単位でやってる、そういうものをちょっと皆さんでご存知のものがあれば出していただきたいと思ひて、きょうこの委員会を開くことにしました。例えば私ちょっと書き忘れてたんですけど、秋芳町ではふれあい祭りですかね山中委員、あれは10月の末か11月の上旬に毎年恒例化してます。そういうのもちょっと書き忘れたんですけど、入れてみたいと思ひてます。とにかく市内だけではなく市外からもいろんなお客さんが参加できるイベント、祭り、そういうものをちょっとピックアップしたいと思ひてます。はい、河本委員。

委員（河本芳久君） だいしょ年をとったから呆けたかもわからんけどね、この特別委員会の設置の最初の原点と、それから先般はジオパークについて、やったんですいね。要するに今いろいろのイベント実施を挙げてこられたけども、これがいわゆる観光交流の人口、いわゆる集客、お客さんをどれだけ増やして行くか。それにどう繋がっていくか。そして地域の活性化に繋がっていかうじゃないか。今、秋芳洞には年間60万人ぐらいの来られるけれども、実質的にはその3倍か4倍来られるかもわからん。市は200万人、250万人の集客、交流人口を目指しておると。それがためには外からたくさんの人達が入ってこんにゃいけん。入ってくるために今はどんなイベントが、外からも迎えられるイベントがあるだろうかという、そういう情報をお互いに交換しながら、我々の特別委員会がそこでどう役割を果たすか

その辺。しかし先般はジオパークを徹底的にひとつやってみようじゃないかということもあった。ジオパークのサイトについてどんなところ見所があるだろうか。そしてジオパークいわゆる認定に至るには、どういうふうに議会としては側面的に援助すればえかるうかと。あっち行ったりこっち行ったりするからね。ちょっと私頭が悪いから、よう委員会を作った以上は最後には何か纏めるのか、纏めないで言いっぱなしで終わるのか。その辺が分からんからね。その辺を交通整理をせんにゃいけんのじゃないか。だからなんでこういうイベントを皆んなから出させて、それがお客さんが来るものにどう繋がってるか。それを今度横に繋ぐとか、そのイベント、イベントをもっと深めていこうとか、PRしていこうとか、なんかそういうことで我々が意見交換するならいいけど、ちょっと方向性が見えてこんから。ちょっとその辺をよう整理してもらいたい。

委員長（下井克己君） はい、すいません。確かに前回までジオパーク、ジオパークと言って、ジオパークについていろいろ議論をしておりました。先般、美祢市総合観光振興計画というのを答申されました。その中の重点の1に入れております。市民共同参画に世界ジオパークの認定というふうに入れております。ジオパークに関しましては、当然今から市のほうが当然進んで行きます。進めて行きます。前回は確かにどっか視察に行こうじゃないかという話しも確かにしましたけど、その前に視察も確かにいいんですけど、この着地型観光である美祢市を、とにかく美祢市の中にどんなものがあるかというのをふとそういう疑問を持ちましたので、急で申し訳ないんですけどこういうことをやりました。ジオパークに関しましては当然止めたわけではございません。当然今から市のほうもいろんなこと来年の4月からやっていきますので、それに合わせて随時またこの委員会の中でも話していくべきと思っております。そここのところの説明がちょっとなかったもので、急にイベントやったもので、皆さんにほんとご迷惑かけたと思いますけど、ご理解していただければと思います。はい、河本委員。

委員（河本芳久君） イベントを外からのお客さんを迎える一つの要素にして核にして、そしてそのイベントを市民が総参加できるようにまたPRしていこうじゃないかと。そうすると今執行部から出された資料の中に、やはりまだ交流人口増やそうという発想が、執行部のほうで足らんのじゃないかと。何故そんなことを言うかという、今上がった資料ぱっと見てね一番お客さんが来てるもの皆抜けちよる。この中。というのはそれだけ各課において、外から呼び込むための我々の行政施策が、また行事がどうなってるかという認識をしておられない。ちいと厳しいことを

言うけど、ということはどういうことかというところの中で一番人が集まっているのは、高原マラソン、または弁天念仏踊り。これは市内じゃないですよ、県外からも来ておられる。これは1,000人以上の者が来ている。これは毎年やっておられる。それから農業関係でしたら秋芳のなし狩りというのは2万人ほどやってくる。あの20日間の2万人の集客を、どう今度地域の観光施設、そういったものに交流人口としてつかんでいくかという、そういう発想が欠けているのではないかと。またルーラルフェスティバル、道の駅を拠点して県下全体をバスツアーして行くという、そういう取り組みがなされているはず。これについて、農林課どのように今集客人口を把握しておられますか。バス以前は2台ぐらいがそういう期間にはずーと来ておりました。今どうなってますか。そういう一つの行事の中に高原マラソン、梨狩り、それからルーラルフェスティバルの道の駅の集客、そんなものが挙げればたくさんあるが、その中に何がやはり行政として関わっていったらいいかというところが私は抜けているのではないかと。だから秋芳洞という一つの題というのを核にして、お客さんを集めようじゃないかと。そういう一つの今我々は検討しておるんですけどね。新しい何か一つのものができることによって、人が毎日何千とって集まる。例えば豊前の道の駅ですが、あの道の駅には毎日二、三千の人が集まっておる。そういうところを美祢市で探されるかどうか、これからそう言ったことを我々としては考えていかにやいけない。美祢市の活性化のために、そのためには私はもう少し関係する各課がもっと集客について考えておられること、また考えなくてはならないこと、そういうものを執行部と議会でいろいろ討論を試みる。そのことのほうが大事ではないか。以上です。

委員長（下井克己君） はい、ありがとうございました。きょうは執行部のほうには、どんなイベントがあるか提出してくれということしかお願いしてませんので、申し訳ございません。高原マラソンに関しては、最後の1ページの真ん中に体育振興課ということで入れております。先程ルーラルフェスタのことでもあるということでも言われたと思いますし、水上振興会がやっておられます弁天祭りも私のほうからちょっと伝えたと思います。本当は申し訳ないですけど、他のイベントがございましたらということできょうはお願いしておりますので、例えば美東のほうの先程言われました炭焼体験とか、厚保のほうで何かございましたら、麦川のほうでございましたらお願いしたいと思います。とにかくいろんなイベントをちょっと出してみたいと思います。皆さんの中でそのイベント全て、全てじゃないですけどほとんど集約した中で、次のものを取り上げてまた議論をしていきたいと思っております。（発言

する者あり)

委員(河本芳久君) こういうねこのチラシが出ておる。これはたくさん刷っているイベントそれを情報発信しておる。山口にたまたま行ったところ、PR山口開府650年山口指針という、なんじゃろうかと。こういうわっとなるのを開いて見ると、東西南北に神をまつて山口のまちづくりを大内が最初にやって、そしてその650年にあたってこういうイベントもやりますよとチラシがぱかんと出ておる。各地いろいろ道の駅とか設備に情報を発信しておられる。美祢市にはこういうものを発信するためのなんか地図を作ろうというありましたが、その取り組みは今どういうふうに取り組みをされておるか。要するにこういう発信をせんにやどうもならん。そう言う発信されておるけれどもこれ全然されてない。そう言ったことを我々はもう少し交流人口200万人増やそうとすれば、それに対する対応というのがなけんにやならん。それを今我々はきょう審議するというのなら意味があるけど、ただ祭りを出してもね、イベント出してもねこれ審議ならん。以上。

委員長(下井克己君) すいません。(発言する者あり)まずどんなものがあるかご存知で、知ってもらわんにやいけんと思ひまして、きょうはいろんなものを出していただくということで、執行部のほうにもお願いしました。今の秋吉台草原ふれあいプロジェクトの件なんですけど、これも私参加してるんですけど、この中には当然博物館、エコ・ミュージアムの方々、自然親しむ会とか秋吉台ミーティングとか、みとう山焼き十字軍、ほっとビレッジ美東、もう秋吉台に係わるいろんなボランティアグループの方々も参加していただいております。執行部としてはちょっと関係はないことはないんですけど、民間各種団体のほうが主となってやってるものでございまして、発信の仕方が民間ですから、それと営利を目的にしておりませんので、さほどの発信はしてないかも知れませんが、こういうのを例えばこの委員会の中でもうちょっとバックアップしてみようというふうになれば、またそれでいろんなやり方があると思います。美祢市のイベントカレンダーなりイベントの情報発信をするチラシですか。そういうものを作って、作るためにいろいろ検討していきたいと思っております。当然この前議長さんたちも喜多方のほうに行かれて、喜多方の方々がいろんな各種店主の方々がもう観光案内のボランティアみたいな形で活動されてます。当然美祢市もそうならなくてはいけないと思っております。そのためにはまず我々がどういうものがあるか、どういうものが不足してるか知る必要があって、きょうはとにかくどんなものがあるかということだけではございまして、ちょっとその辺の情報を収集しようということで、皆様方のいろんな知ってる祭

り、イベント、体験学習そんなのを出していきたいということで、きょうはやっております。理解していただけましたか。（発言する者あり）当然ジオパークに繋がります。これは。（発言する者あり）はい。

委員（村上健二君） これちょっと見ると、桜山の南原寺とか雪舟庭とかなる地蔵とか、あるいは厚保のお薬師さんとか、そういうは今頃だいぶん客がきよるんじゃない、その辺が全然出てない。

委員長（下井克己君） それを出していただきたい。

委員（村上健二君） それを関連つけて、美東町、秋芳町のほうにも歴史あるお寺があるかも分からんから、それを是非桜山の南原寺を中心にして厚保のお薬師さんと、それとほかのところがあれば、そう言うその何をちょっと考えてみたほうがいいんじゃないかと思うよ。

委員長（下井克己君） お願いします。どんどん出して下さい。（発言する者あり）ずれてません。すいません最後の6ページのところに私が入れてます、ホタル祭り、弁天祭り、岩戸神楽舞、当然こういうものも他にもあると思います。（発言する者あり）すいません。ちょっと10時半まで休憩いたしますので、お願いいたします。

午前10時18分休憩

.....

午前10時30分再開

委員長（下井克己君） それでは再開したいと思います。ほかにご質疑ございませんか。はい、岩本委員。

委員（岩本明央君） ちょっと、ちゃらんぼらんなことをお尋ねするかもしれませんが、今、着地型観光ということではありますが、これ、逆に裏を返せば通過型観光でなります。特に美祢市は非常に交通のアクセスが良すぎて、着地型の観光が難しいかなあちゅう感じも私個人的には持っているわけです。今、市長があげておられます交流拠点都市、これももちろん交通の便が良いということでもあろうと思います。それでその辺の問題があるような気がするわけです。もう一つは、やはりそのためには宿泊施設がなければという気もしますし、私どもが旅行に行っても、やはり土産を買う場合に、ついばっと通るよりも1泊したらそのホテルで土産物を買うとか、いろんなものを買って帰るわけですが、その辺の宿泊施設の民間の方の宿泊施設の問題。それからもう一つは、温泉旅館型の宿泊施設もありますが、日本全国にですね。その辺のこう見てみると美祢市で一番大きいのは、美祢グラさんが一番

大きいような感じがするんですけど。その辺の通過型観光なり着地型観光、それからまた宿泊施設等の関係なり、また交通の便も良すぎるような気もするんですが、その辺のような感じは、どのようなお持ちなんでしょうかね。矛盾の点もあるような気がするんですがね。一つ問題提起として。（発言するもなり）

委員（村上健二君） 着地型ってようわからんが、泊まるちゅうことか。

委員長（下井克己君） 泊まるだけじゃないです。（発言する者あり）結局、岩本委員が言われた通過型って、秋吉台をバスの中で見て、台上を通過する。これ、もう通過ですよ。そこに止まるちゅうのが、1時間でも2時間でもそこでいろんなことをやってもらうと。当然、お金を落としてもらわんといけんですけど。（発言する者あり）1時間、2時間だけじゃあなくて、できるだけ長く。（発言する者あり）すみません。西田課長。

総合観光部観光振興課長（西田良平君） 只今の着地型観光ということなんですけれども、そもそもこの言葉というものが、通常、旅行の場合というのが大手旅行会社さん、こういったのが主に都市部にあるわけですけれども、こちらのほうからの発想で、その各地方の、例えば美祿であれば秋吉台・秋芳洞というのがございますが、こういったようなところを一つのツアーに組み込んでいこうというような発想がありまして、これが通常の旅行体系でございました。これが、いわゆる発地型、出発の発に土地の地という字で書くんですけども、これに対しまして、今度は地元のほうから、地元にはかないもの、地元にはかわからないような、例えば行事であったりとか、施設であったりとか、食であったりとか、体験であったり、そういったようなものを地元から発信していこうという発想のものが、その反対の意味をとりまして、着地型観光というふうな言われ方をしております。この着地型観光につきましては、いわゆる今言われましたように、その土地に少しでも長く滞在をしていただく。いわゆる滞在型と言いますが、いろんなところを美祿市の一点だけを見て市外のほうに行くとか、そういうことではなく、なるべく市内にとどまっていたくようなことをツアーとして組み込んでいこうというものが、そもそも着地型観光であります。この着地型観光につきましては、もちろん宿泊施設等、先程、岩本議員言われましたように、泊まっていただけるところまでいけば、一番いい理想の着地型観光というところになるかと思えますけど、なにしろ施設が今言われましたように市内には、数カ所の宿泊施設しかございません。それであれば、なおさらのこと地元にはかないものを情報発信をして、なるべく長い時間地元にとどまっていたく、お金を落としていただきたいということが、着地型観光

と言えるのではないかというふうに思います。（発言する者あり）

委員長（下井克己君） はい、河本委員。

委員（河本芳久君） お互に着地型観光なる概念ちゅうか、捉え方、見方、これは共通理解をしていただいたと思いますが、この美祢の受け入れとして、来てよかった少しでも滞在してみよう。そして地元の人とも交流をしてみよう。そこの自然とも触れあってしっかり英気を養ってみようと。そういう意味からすると、かつては100万人以上、お客さんが来ていた時の中心は、修学旅行生だったんです。この旅行生が40万、50万来る。これが今度は二十歳になって、新婚旅行のやはりコースの中に入れてみよう。会社の研修の一つの一環で、慰安旅行の場にも入ってこようと。こういう観光地であった。自然に来よった。しかし、修学旅行生のスタイルが変わっていった。そういう面からやはり秋芳洞に来て、宿泊施設は一つしかないとか、二つしかないとかいうとどうしても、ここでの滞在に時間をかけなくなった。萩によけ修学旅行生が行くようになった。そういうことから、今までは、科学博物館がその受け入れの中心となって、非常に秋吉台の魅力をこの指導したり、実際に化石体験を採集していったり、秋吉台の上を散策するとか、そういうことでお客さんが来ておった。しかし、その修学旅行生が極端に減った。今、何%か、どのくらいになっていますか。ちょっと確認したいんですが、山本部長。割合として。

委員長（下井克己君） はい、山本部長。

総合観光部長（山本 勉君） 資料が今、手持ちがないので、数字的なことはわかりませんが、今の観光の動向としましては、まず、基本にあります昔はエージェントが送り込んでいただいておりました団体客ですよね。これはかなり減少しております。それが何に代わったかと言うと、個人客に代わっています。修学旅行も初めは、何て言いますか、体験型。それとそういうものとか歴史、そういうものにあっただけですが、今頃は、科学とか環境、今、はやりのエコですね。そういうものに代わりつつあります。そういう部分で団体客がそういうところ、場所を求めてですね変化しておるとい状況が、今は起こっております。基本的には、修学旅行のほうも若干減っております。

委員長（下井克己君） はい、河本委員。

委員（河本芳久君） そうすると、お客さんの動向がいろいろ代わってくる。代わってきたもの対応していかんにゃあならんと。そういうことからすると、我々が審議しているきょうは、魅力を引きつけるイベントがどんなんがあるかと挙げられ

た。たくさん拳がった。しかし、お客さんを外から呼び込む一番中心になりそうな、なっておるそこを核にして、我々はこれからの観光交流のまちづくりに特別委員会としてどう関わっていくか。そこにもっていかないと、この委員会設置の目的がちょっと審議する内容もね。やはりある程度の資料も集まってきたけれども、もう一遍、修学旅行をひとつしっかり考えてみようじゃないかということになれば、それに力を入れんにゃあならん。この委員会として、きょうはたくさん出ましたが、中には先程、南原寺の問題も出ましたけれども、これも一つの歴史的な面からすれば、南原寺を核にしながら、外からのお客さんを受け入れるとか。または、維新発祥のきっかけを作った大田絵堂の戦いという維新街道を中心にすれば、立派な歴史観光の受け入れ体制もできるわけです。今、長登銅山という一つの面からして、歴史ツアーの中でも古代の。そういったところをすると、今度はどうかと言うと、韓国とのつながりが必ず出てくる。韓国とのつながりでどういう祭行事があるかと言うと、秋芳町の神社の中には、秋祭りには必ず野波瀬に行って、野波瀬の海草と潮水を酌んで、そして各戸に竹の樽に水を海草を付けて配ってずっと行く神事がある。というのは、朝鮮半島からこのあそこに漂着された、その我々が子孫だから、その霊をその野波瀬に上陸したというような伝承、言い伝えから、秋吉八幡宮には、ちゃんと鳥居に歴史的な背景が書いちゃう。そういった過去の歴史的なものをつなぎながら、この説明すると、おおそうかということでもた人が集まる。そういったものは、宮崎県の高千穂における夜神楽、全国からのツアーが神楽を見るために、もう今のシーズンはずっとたくさんのお客さんがやってくる。だから我々としては、何が魅力かと言うたら秋吉台、秋芳洞というひとつの。かつてはこっちは石炭という。そういう一つの面と今のような歴史的な面。それから我々は、整備をすとかいろいろな事業を興していくとかいうことを特別委員会として提案していくというなら、話がわかる。方向性はしっかり出していかないと、特別委員会の役割というのがみんなに共通理解ができんのじゃないか。だからきょうは、そういうイベントについて共通理解をするということで一応理解ができましたので、いたらん話をしました。

委員長（下井克己君） はい、村上委員。

委員（村上健二君） 前のように予算の面、どうねえしたらええかと。方向転換をせんにゃいけんちゅうことを考えんにゃあいけんわけ。ただ、博物館行って、化石見て、ちょっと説明聞いて、秋芳洞って。動かんものを見てもしょうがないから。そこで、もし企業の協力が得られたら、住友鉱山とか、伊佐のセメント工場とかの

採掘現場をツアーができますよと。小中学校の修学旅行に関してはできますよと。先着順ですよと。早う言わんにゃあ、興産見られませんよとか。そういうのをできても、できんでも行政のほうなり、企業に行って交渉して。そういうちょっと方向転換、目先を変えて修学旅行生をどうねえか入れるということを考えんにゃあ。修学旅行生徒が南原寺見たり、お寺見てもしょうがないんじゃから。梨狩り行ってもしょうがない。やっぱり、中で大きな機械が動くよとか。そういうのを見たほうがええんじゃない。大きな鉱山機械もまず見ることはないんじゃから。そこでちょっと乗せて貰えるとか。あるいは発破を見るとか。だから秋吉台に来たら、そういう鉱山を見られますよとか。そりゃあ子ども大喜びしますよ。逆に言うて、早う言わんにゃあ見られませんよ。先着順ですよ。その代わり企業の交渉はします。我々がちゃんとして、地域の発展のためにお願いします。できるかできんかはわからんよ。企業もやっぱり危ないところじゃから。できりゃあそういうことも、考えていかんにゃあ。目先を変えて。何で秋芳洞。そりゃあおもしろくないっちゃ。修学旅行生が化石とか動かんものを見て。と思わん。その辺をよう考えて。一つ一つ核になるものを何かしていかにといけんと思う。

委員長（下井克己君） はい、ありがとうございます。（発言する者あり）はい、山本委員。

委員（山本昌二君） はい、核を一つ言います。あの、秋吉台ですね。皆さん特に歴史の先生おられますが、やはり往還道のあれがありますね。長者ヶ森通って、そして青景へ抜ける。そして往還松も青景のほうから上がったところにもですね、十数本植えてあります。一時枯れたということですね。この前上がって見たんですが、非常の大きく成長しておりますし、地域の皆さんが非常に素晴らしい、何て言いますかね、藪を刈っておられますし、良いわけですが。人通りが全くないという観光資源でもないというような状況もちょっと一、二度見ております。でですね。やはり子どもたち修学旅行をする。これから体験やる。体験学習、早う言うたら遠足だろうと思いますが、やはりそうした美東町大田のほうから上がって、昔ここを歴史の大先輩の先生方がね、武士がね通られたんですよと。いわゆる大内義隆も通っておろうと思います。そして大寧寺のほうへ行った歴史もあるわけですよ。大内義隆。うちの近くにもそのための大きな岩風呂が今もって残っております。やはりそれをですね、いつも私、来られた方へ説明しておりますが、この前長登銅山へ来られた子どもと先生に言うたのは、そういうコースがありますので、先生、将来って言うか、近々ですね、そういうコースも検討されたらどうですかと言う話をし

たら、遠足にはまことにいいんじゃないねと言われたんです。これからずっと上がってきたところに長者ヶ森があります。長者ヶ森は、十分よく知っておられます。で、例の秋吉台に前に話がありました例の有料道路で、今は一般道路になっておりますが、そこへ駐車場がありますよね、長者ヶ森の手前に駐車場があります。場合によっては、そこから例の青景のほうへ徒歩で歩いて行く方法もありますよという話もちょっとしております。時間が3分の1減ってきますから、子どもたちも疲れがとれるということを言いましたので、そうしたことも将来、執行部共々、検討の材料に入れたらどうであろうかと。やはりこれは、歴史、先程大田絵堂の戦いのことを河本先生が言われましたが、やはり往還道のこれも美祢市には素晴らしい歴史の一つの何て言いますか、輝かしいものがありますので、是非この辺も入れていただきたいというふうに思います。以上です。（発言する者あり）

委員長（下井克己君） はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） きょうですね、このイベント祭りということで、イベントの行事が改めてたくさんあるなということが少しわかったんですが、さらにこれにイベントの行事がまだ抜けていることもあるということで、追加されるわけでありませけれども、だいたいそれだけでも300ぐらいこういったイベント行事たくさんあるなと。それでですね、ここに100%毎回全力投球というのはなかなか難しいとは思うんですね。そういった面で、その中で本当に選択するにあたってありますから、これを集中すると。そしたらどこに集中するんかということでですね。その辺の絞り込みについてしっかりと力を注いでいくところは、こういったイベントであるかということ、今後考えていかなくてならないかなと。そのように思っております。これらの行事というのは、今後ともジオパークが2年のちに認定等されましたら、このジオパークというのは、皆さんご存じのように、ユネスコが支援して推進する科学的、文化的に貴重なこういった地質遺産を含む自然公園ということで、より一層認定されれば、これらのイベント祭りというのが付加価値を高めて、本当にいい方向に私はなっていくのではないかと、そのように思っております。また、合わせてですね、着地型の観光をより一層深く進めて行くにはですね、やっぱり特産品、またこういった新しい美祢市の特産を商品開発をですね、しっかりと進めていくところのものが必要と。それには、2年前には委託会社が興してですね、そういった中で商品開発もされるかなというちょっと期待もあったんですけど、それが駄目になったもんですから、そういったところは、今後美祢市の観光協会等どっかがですねリードして、そして食べたくなる、買いたくなる様々なこういったイ

ベントの中でそういった商品があれば、買っていきたいと。こういった新しい商品を開発するような作り込みというの、今後美祢市のより発展的な何て言いますか、着地型観光をしていく上には、非常に大切になるかなと思っておりますので、この辺について、どうか観光事業部としてどのようなちょっとお考えがあるかなと。もし考えがあれば、教えていただきたいと思います。

委員長（下井克己君） はい、副市長。

副市長（林 繁美君） 先程から、委員の皆さんからいろいろ意見等も出ております。観光については、ご存じのように国においては、観光庁。県が観光交流局。そして県内の市町には、それぞれ観光協会なり、コンベンション協会。それとか美祢市においては、観光協会と。行政においては観光課をもっておるのがほとんどです。それでやはり共通した問題が、今皆様がいろいろお話されていますことが、すべて同じ話題となっております。やはり観光の形態が変わったということで、グループ旅行等が多くなっております。それで今、行政のほうとしても県の観光連盟というのがあるんですが、それともいろいろ協議をしておりますが、まずは、先程から話が出てます着地型。着地型の意味は、よく理解ができたと思いますが、やはりですね先程から意見が出ておりますように、着地型のメニューづくりなんですいいね。半日コースはどういったコースがある。文学の歴史のコースは、半日コースは、こういったコースがあります。一日コースは、こういったコースがあります。そして、泊まり込みであれば、やはり広域観光ということも考えて、お隣の長門市、山口の湯田等々とタイアップしてそういったコースを考えて行くと。いろいろな商品づくりが今、求められておるということは認識しております。実際に一日めぐり、またエコの話も出ましたが、今、ある民間の方から提案があるのは、今からの電気自動車。EV車を使っただけの観光めぐり等々の案もいただいております。だから、先程から意見が出ましたように、着地型ということで美祢市とまた県内を含んだこのメニューづくりが大事だろうと思います。ただその辺はこれからですね、いろいろなきょうはイベント等の提案、集計をされておられますが、やはりこれを線で引いて、いろんなコースを作る必要があるかと思っております。（発言する者あり）

委員長（下井克己君） 委員の皆さんほかにございませんか。はい、河本委員。

委員（河本芳久君） 受け入れ体制の一つの条件整備。そん中の案内が、看板とか地図とかそういうものが今のところあまり整備されていない。歴史なり産業なり、それから行事なり、そういったものの情報発信と現地に行ってみたらそういう案内、どういうルートを行けばそこに行けるかという、そういうものがこれから整備

どんどんしていかれんにゃあならん。これは、昔のことですから20年ぐらい前じゃからどうなっちゃうかわからんが、大分県の国東半島のところに姫島という小さな島があるんです。その島は、まさに豊後水道のいわゆる上にぼこんと浮いた島。今言った韓国との歴史で、歴史的な観光案内の看板とかそりゃあ非常によく整備されておる。この西日本では唯一の黒曜石、白の黒曜石があそこから産出。その黒曜石がずっと全国にこの今から3,000年くらい前に縄文時代のころから、その黒曜石が全部流通しておる。そういう歴史的な面から、やっぱ地質を調べに来る人達もおるんです。魚もうまいということで、民宿もたくさんある。やはり美祢に来られたら、こういう分野やったら、こういう一つの案内ができますよ。こういう一つの魅力ある体験が学べますよと。そういう発信がもう少し体系的にできんかと。こういったことも我々としても、行政と一緒に考えて検討する。これが一番必要じゃないかと。以上。

委員長（下井克己君） はい、副市長。

副市長（林 繁美君） 今、河本委員言われましたように、今年の予算にもまた、来年も予定しておりますが、案内、サインシステムっていうことで、今年、今から予定しておるのが、高規格道路と秋吉台、洞を中心としたところの大きな案内看板は、今から予定しております。また来年にかけてですね、全市を通してそういった案内看板を予定はしております。そういうことで、案内のほうはできるだけ統一したもので、市内を皆、巡っていただこうと。案内するような仕組みを今、考えております。

委員長（下井克己君） 皆さん、ほかにご意見等ございませんか。質問等。よろしいですか。じゃあ只今いろいろいただきましたご意見等、また副委員長共々検討して、当然ルート作ったり、メニュー作ったりしなくちゃいけませんので、その辺の素案的なものを作って、次回のときにまた、皆さんと協議していただきたいと思っております。本日はこれにて終わります。ありがとうございました。

午前10時58分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成22年12月8日

観光交流推進特別委員会

委員長 下井克己